

大曲皮膚科ニュース

2006年5月29日号

ほくろの診断に威力発揮！ダーモスコピーとは？

2006年4月からほくろの診断に対して、ダーモスコピーという検査が保険適応になりました。原理は簡単で、ジェルを皮膚にぬってからレンズ



ズを当てて拡大して見ると、がたがたした皮膚表面をジェルが平滑にすることで、皮膚表面で起こる光の散乱をなくすことができるために、それより少し深部にある褐色のほくろの細胞の、広がりパターンが肉眼よりも詳細に判るといえるものです。

これにより、見るだけで、良性・悪性の診断が容易に出来るようになりました。レンズを当てるだけなので、患者さんにとっても楽な検査です。医師が悪性腫瘍を疑った場合に、以前は、取って顕微鏡で調べるしかなかったのですが、まずダーモスコピーでほくろを診察して、良性と診断され、手術をしなくて済む場合が多くなると思います。

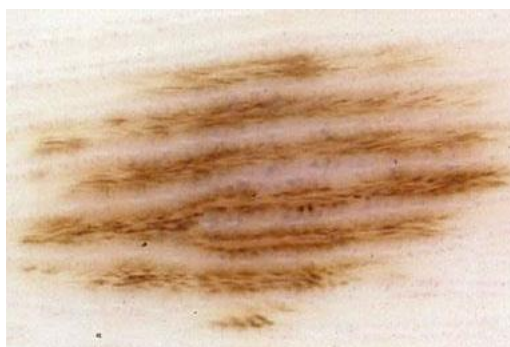
☆良性のほくろと悪性のほくろの見分け方は？☆

日本人の足の裏のほくろは癌になりやすい、と聞かれて心配になった方はいらっしゃいませんか？ 肉眼で見ると、悪性のほくろ（悪性黒色腫）は、黒色・灰黒色・灰色・灰褐色など多彩な色調で、がたがたとした不規則な形で、周囲との境界がぼんやりしているところがあります。それに対して、良性のほくろは褐色～黒褐色の色調が均一で、全体の形は円形～楕円形で、周囲との境界がはっきりしています。

また、大きさも重要で、成人になってから出来た足の裏のほくろは、7mmを超える大きいものは悪性を疑うため、手術して検査をする必要が

あるとされています。ペンシルサインといって、鉛筆のおしり(7mm 径)をほくろに当ててそれを超える(陽性)方に受診を勧めています。簡便な自己チェック法として利用してください。

☆ダーモスコピーではどう見える?☆



左の
写真
の
人
は、
足
の
裏
(
ゆ
び
の
下
面
で
す)

にほくろがあります。向かって左側では溝に一致した褐色の平行線が並んでいることがわかりますが、向かって右側はべたっとした均一な色です。手のひら、足の裏には、手の指の指紋に相当する細かな溝とその間の隆起による模様がついており、この隆起部に色が付くと悪性で、溝に色が付くと良性のほくろです。そこで、これは良性のほくろではないかと予想がたちます。

ダーモスコピーで確かめてみましょう。右の写真のように、べたっとした色に見えたところも含めて全体が、溝に一致する褐色の平行線で構成されていることが確認され、良性のほくろと診断されました。この場合は1本の溝に2本ずつ褐色の線がレールのように並んでいます。

実際は2つの写真は異なるほくろですが、基本的にはこのようにダーモスコピーで調べて、溝に一致する平行線パターンであり、隆起部に一致する平行線パターンでないことが分れば、99%の確率で悪性ではないことが分っていますので、手術をする必要がなく様子を見るだけでよい、という判断が出来ます。



手のひらも同様の診断方法でよく、その他の部位は毛が生えていることなどにより、良性・悪性のほくろともまるで異なるパターンですが、やはりダーモスコピーによって区別が可能です。心配なほくろやできものがある方は、お気軽にお申し出ください。

(ほくろの写真は、インターネット上の、欧米のダーモスコピーの教科書やフリーアトラスより)

大曲皮フ科 住所：〒061-1272 北広島市大曲末広 1 丁目 2-1 (セリ
才 1F) 電話：011-376-2000 記：院長 梅津 修